



11 区 | 前田・八和木 行政区

地理



大久保・外内から飯樋町へ入る交差点を東に進むと前田・八和木行政区に入る。飯樋4区の南東部を占め、西は上飯樋、東は小宮に接する比較的大きな行政区。飯樋川とその支流である前田川と八和木川が流れており、水の豊富な地域である。

文化・生活

【事故前後を通して】

前田地区と八和木地区が隣接して一つの行政区を作っている。もともと別地区であったところ、それでは小さすぎるため前田と八和木が一つにまとまったという。さらに前田地区は3つの、八和木地区は2つの組に分かれており、普段の話し合いや草刈り、大雷神社のお祭りの際などこの組ごとに行動することが多いという。なお、3年に1度開催される大雷神社の例祭では飯樋4区合同で神輿を担ぎ、飯樋町に運んで夜を明かすというものであるが、この際飯樋町で泊まる宿も組ごとであったという。行政区が一つとなっていく行事といえば、年に一度春の総会と年4回程度の役員会である。かつては、役員会の後に懇親会でお酒を飲み明かすことも多かった。

農業では、以前は他の行政区と同様小規模



今野茂之 行政区長

農業をしつつ、40年ほど斎藤運輸工業でクレーン車の運転手を勤めた。村の中では最も勤務年数が長いという。かつては、東京まで出稼ぎにいったことも。現在は行政区長として精力的に住民と関わり、行政区ににぎやかさを取り戻そうと家にはイルミネーションも設置している。

で葉タバコの栽培をする農家が多かったが、手作業が多く震災前から別の農作物に移行する人が一定数いた。現在比較的広域で栽培されているのは米かナタネである。ビニールハウスでシイタケを栽培している住民もいる。ナタネは契約栽培をしており、収穫・乾燥・ゴミ取りをした後、南相馬の契約先に出荷している。とくにナタネは油が取れる商品作物であるだけでなく、春には黄色のきれいな花が咲く景観作物でもあり、畑一面に菜花が咲く様子は前田・八和木の特徴的な景色のひとつである。飯館では兼業農家が多く、前田・八和木でも同様であった。このほか、現在では大きく繁殖を営む畜産農家が1軒ある。

新しいことにチャレンジする人が多いのも特徴的で、震災前は養蜂事業を行う人や、ナマズの養殖を試みる人もいた。また、牧草地の一部を借りてモトクロス（オフロードをオートバイで走る競技）場も運営されていた。



▲ 今野区長の栽培するナタネ畑
(今野区長提供)

▼ 行政区の集会所 観音様が隣接している。最近まで鳥居が集会所の正面にあったが、移設された。



▲ 八和木の牧野（1983年、役場提供）



▲ 前田上組 比曽とを結ぶ通り